

地産地消運動をより一層推進させていくため、三重県では「みえ地物一番」キャンペーンを行っています。毎月第3日曜日とその前日を「みえ地物一番の日」とし、三重県産品に親しみ、愛着を持ってもらえるよう県民や事業者と協力して様々な事業を展開しています。安全安心な地元食材をみんなにいただきますよう。



つくろう地産・地消・地食の輪 みえ地物一番や

MIE PRIORITY 1 地物一番



今月は同社が取り組む地域循環型農業に注目してみます。

「三」の理念のもと、瓶、缶、ペットボトルのリサイクルに取り組んでおり、地域に密着した循環型社会の実現に取り組んできました。そこで

農作物をその地域で消費し、その残渣をたい肥化して、また農作物の栽培に役立てる。そんな農作物のリサイクル・ループを実現し、実践しているのが津市にある「有限会社三功」です。同社は昭和45年の創業当時より「活か

食と農がつながる循環型社会を実現

三重で実践する地域循環型農業

■循環型農業に取り組む事業者

有限会社三功

代表取締役 片野 宣之さん



ごみ回収から農作物販売まで一事業者が一貫して行う

「有限会社三功」では、この地域のスーパーやコンビニへ給食などから食品残渣を回収し、それを自社内のリサイクル施設で生ごみたい肥「有機みえ」にリサイクルさせています。この「有機みえ」は自社も参加し、設立した農業法人「酵素の里」で一般販売されるほか、近隣の生産者と共にこのたい肥を使った農作物の栽培を行っています。また、「酵素の里」直売所や地元スーパーなどでこれらの農作物を販売し、「食の地域循環システム」を実現させています。この取り組みが認められ、平成21年度には環境省の「食品リサイクル推進環境大臣賞」奨励賞を受賞しました。

生ごみたい肥を核とする環境に優しい循環型農業

良い農作物を作るには土台となる土づくりが大切です。「有機みえ」を利用する農業者からは、収穫量の増加や味の向上、農薬の使用量減少、病気への抵抗力増強などの声をいただき、健全な土づくりが行われていることを実感しております。平成18年から、日本大学や日本土壌協会など専門機関と共同研究を行い、生ごみたい肥の安全性や、土壌や作物に与える影響などを調査しま

地域から出た生ごみをたい肥化し豊かな実りを作り出すシステム

■食品残渣のリサイクル・ループ



した。持続可能な循環型農業を実践していけるよう、農家の方々や販売店などの協力を得て、より良いパートナーを増やしていきたいと思っています。

